

平成31年3月8日  
中村河川国道事務所かたさか  
国道56号 片坂バイパス

## 開通3ヶ月後の交通状況について

11月17日(土)に開通した国道56号 片坂バイパス (四万十町西しまんとちょう にし IC～黒潮拳ノ川IC間、延長6.1km) の開通3ヶ月後の交通状況をお知らせします。

## 【交通量・歩行時の安全性の向上】

資料-1

- 交通量は、信頼性の高い片坂バイパスが約9割を分担。
- 国道56号の交通量が約9割減少し、歩行者や自転車の安全性が向上。

## 【走行時の安全性・快適性の向上】

資料-2

- 急ブレーキ・横揺れの発生が国道56号の利用に比べて約6～7割減少し、安全性・快適性が向上。

## 【救急医療活動の支援】

資料-3

- 片坂の回避による走行性の向上により、患者、同乗者、ドライバーの負担軽減。

※今後も引き続き調査を行い、効果を検証して行きます。

本施策は、四国圏広域地方計画「No.1南海トラフ地震を始めとする大規模自然災害等への『支国』防災力向上プロジェクト」及び「No.5 地域の自立的・持続的発展に向けた『資国』産業競争力強化プロジェクト」等の取組に該当します。

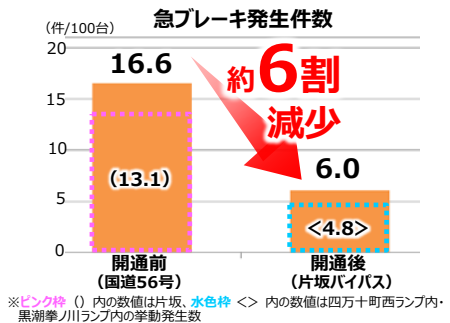
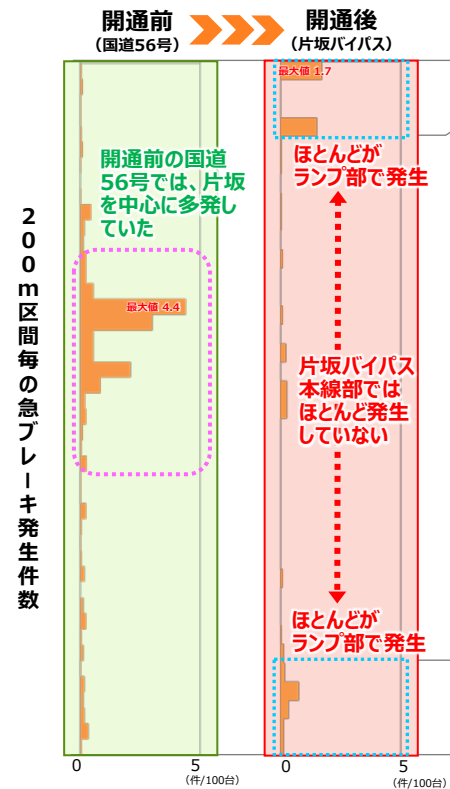
国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所 (TEL: 0880-34-7301代表)  
副所長 (道路) 江川 昌克 (えがわ まさかつ) 内線205  
◎調査課長 小竹 良 (こたけ りょう) 内線451  
<◎: 主たる問合せ先>



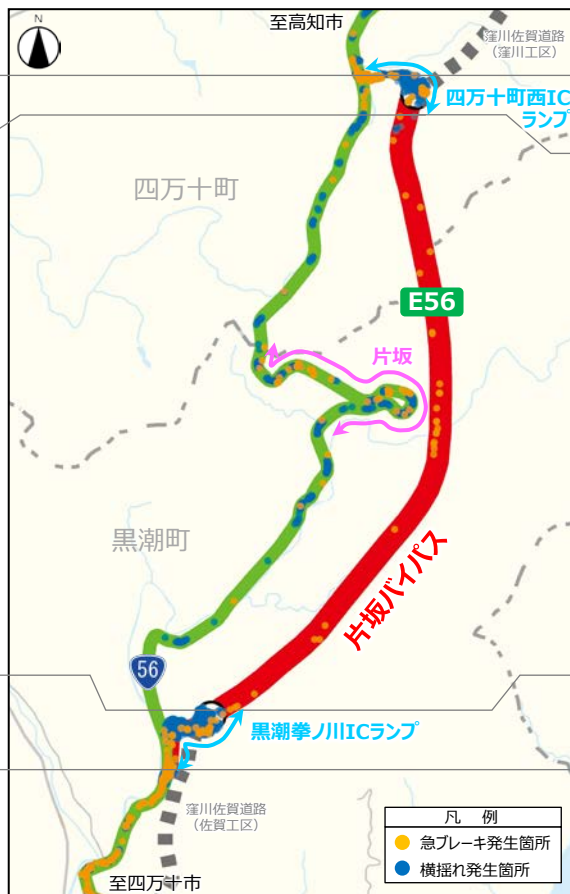
# 【整備効果】走行時の安全性・快適性が向上

- 開通前、国道56号は急ブレーキ・横揺れが多く発生する“交通の難所「片坂」”を走行せざるを得なかった。
- 片坂バイパスの開通により、急ブレーキ・横揺れの発生が開通前と比べ約6～7割減少し、安全性・快適性が向上。

## 急ブレーキ発生件数の変化



## <開通後の急ブレーキ・横揺れ発生箇所>

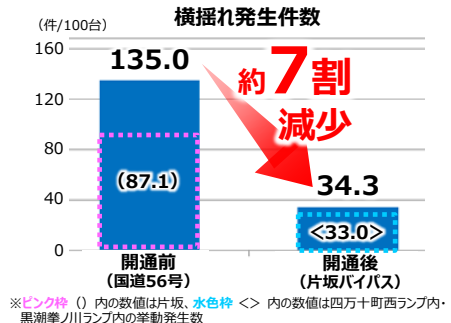
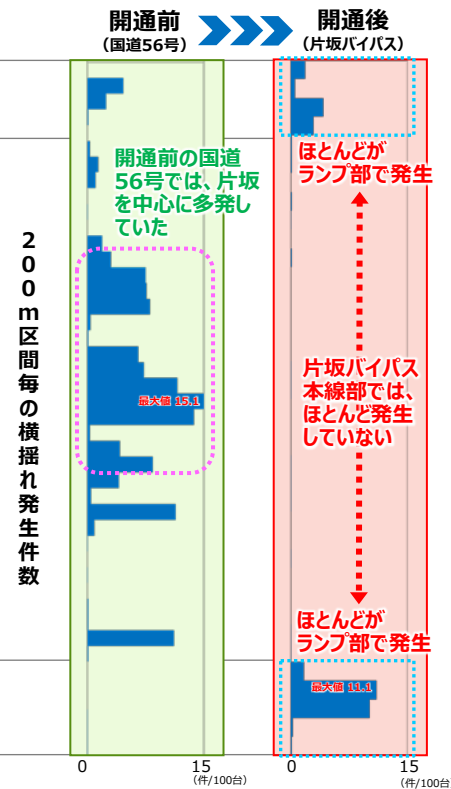


※急ブレーキ、横揺れ：ETC2.0プローブデータ  
 開通前：国道56号 (H30.10)、開通後：片坂バイパス (H30.12)  
 急ブレーキ：前後加速度-0.3G以下\*1、横揺れ：左右加速度0.2G以上、-0.2G以下\*2

\*1 前後加速度 (-0.3G以下)：ヒヤリハットを感じるのとされる-0.3G以下を抽出。  
 1秒間に約10km/h減速する急制動に相当。

\*2 左右加速度 (0.2G以上、-0.2G以下)  
 時速50km/hで半径100mのカーブを曲った時の横方向加速度に相当。

## 横揺れ発生件数の変化

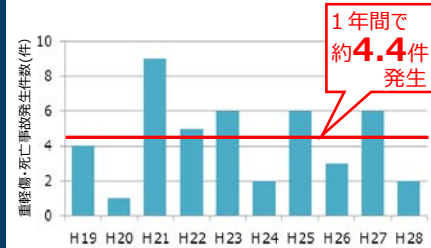


開通後、片坂バイパス及び並行する国道56号の交通事故発生件数は

0件

※高知県警察 (平成31年2月20日現在)

片坂バイパスの開通前は…  
 片坂バイパス開通前の並行区間における重軽傷・死亡事故発生件数



片坂バイパスを利用するドライバーの声

- 緩やかなカーブで坂道もなだらかな片坂バイパスは、ゆったり走ることができ、ストレスなく運転できました。(大型トラック運転手)
- 歩行者や自転車の心配がなく、安心して走行できます。
- 道路がまっすぐで子供の車酔いもなくなり、時間も早くなって助かっています。(乗用車運転手)



# 【整備効果】救急医療における患者、同乗者、ドライバーの負担を軽減

○「片坂」の回避による走行性の向上により、**時間短縮**及び**急カーブ箇所**による患者の横揺れ、**同乗者の車酔い**が軽減するとともに、**救急車ドライバーの精神的負担**が軽減。



## 救急医療関係者の声

- 開通後、片坂バイパスを5回救急搬送で走行しましたが、**時間短縮**及び**急カーブ**による患者の**横揺れ**が軽減されました。
  - 緩やかなカーブの片坂バイパスの利用により、**患者の同乗者が車酔い**するケースが軽減されました。
  - また、**救急車ドライバーの精神的負担**が軽減されました。
- (幡多中央消防組合黒潮消防署)

